

8.2 浚渫土砂の有効活用対策案の検討結果

堆積土砂を取り除く対策を進める場合は、「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律」による海上保安庁や海洋汚染の面等から浚渫土砂の処理に制約があり、浚渫土砂をどうするかといった問題がある。また、この問題に関しては、地元（八宇農林水産振興協議会）から閉塞状態にある樋門機能の回復等を目的とした滞筋浚渫の土砂を有効活用した干潟の再生及び渚の創出事業の要望がなされている。

このような状況を踏まえ、前項の干潟排水対策（案）で示した対策はいずれも、最小限、滞筋の浚渫が必要となる。その浚渫土の活用案を案A及び案Bに示す。

案Aは、現在、豊川地区の農林、建設海岸で行われている海岸保全事業で堤防の補強嵩上げ工事ならびに構造上の安定のための捨石敷設工事を堤防前面に行っている。その捨石の上に、浚渫土に砂を混合した覆砂を行い、塩性植物、抽水性植物を植生させる。また、浚渫土量に見合った大きさで干潟域に捨石による囲いを設置してその中に浚渫土（可能であれば砂の混合土）を投入することにより浚渫土砂を汀線の干潟環境改善に活用する案である。この対策は当地区でも試験施工等を実施し、改良改善をしていく中でより適した利活用になる。

案Bは、案Aに対し干潟沖合に設置するもので、浚渫土砂が流亡しないように捨石等の囲いを設け、その中に浚渫土（可能であれば砂の混合土）を投入する案である。外観的には、干潟の中に島があるような状態となり、そこに抽水性植物の植生が可能となれば八代海全域環境改善に寄与するものとなる。また、潮の流れが島により変化することで、干潟の場の多様化が促進され、生態系の多様化につながる。

案A、案Bは組み合わせも可能な対策であるが、いずれも八代海における事例がなく、今後、試験施工、調査、分析、経過観測をしていく中で、より適した対策になると考えられる。

案	A. 浚渫土砂の有効利用案2(汀線の干潟環境の改善)	B. 浚渫土砂の有効利用案2(湾内の海水流動改善)
図		
特徴	現在、豊川地区の農林、建設海岸で行われている海岸保全事業で堤防の補強嵩上げ工事ならびに構造上の安定のための捨石敷設工事を堤防前面に行っている。その捨石の上に、浚渫土に砂を混合した覆砂を行い、塩性植物、抽水性植物を植生させる。また、浚渫土量に見合った大ききで干潟域に捨石による囲いを設置してその中に浚渫土(可能であれば砂の混合土)を投入することにより浚渫土砂を汀線の干潟環境改善に活用する案である。この対策は、当地区でも試験施工等を実施し、改良改善をしていく中でより適した利活用になる。	案Aに対し干潟沖合に設置するもので、浚渫土砂が流出しないように捨石等の囲いを設け、その中に浚渫土(可能であれば砂の混合土)を投入する案である。外観的には、干潟の中に島があるような状態となり、そこに抽水性植物の植生が可能となれば八代海全域環境改善に寄与するものとなる。また、潮の流れが島により多様な流れを起こすことにより、干潟の場の多様化が創生され、生態系の多様化につながる。
施工性	H15～19年にかけて豊川海岸保全事業で実施した工事で浚渫土の捨石による囲みと投入を行っている。植生、覆砂等は今後の課題であるが、土砂を投入する計画までは実績があり、容易な施工である。	案Aで実施した工事の中でポンプ圧送で行っているため、投入場所を変え確保することで、容易に施工可能。ただし、植生、覆砂等は今後の課題であるが、土砂を投入する計画までは実績があり、容易な施工である。
経済性	湾筋掘削 1,060m(浚渫土砂 31,000m³)に浚渫土捨場捨石延長 580m 事業費279,000千円	案Aより、捨石の囲いが長くなる分、高額になるが、高額施工にはならない。
備考		